

事例23 題材「人物を描こう」

表現と鑑賞を相互に関連させた人物画の実践

美術 第2学年

小松市立松東中学校・教諭

1 事例の概要

表現と鑑賞を相互に関連させた題材の取り組みを紹介する。

スケッチの目標として、第1学年では「形や色の特徴をとらえる」ことを大切にした。第2・3学年では観察を更に深め、「想像力を働かせながら、対象の奥まで読み取ろう」とする態度を育てた。これまでの様々な経験などから、考えたことや、創造したことなどを第3学年の自画像に生かした。3年間の流れの中で「表現の能力を高める鑑賞」「感じ取る力を育てる鑑賞」「作品や作家、文化の理解のための鑑賞」を第2学年の題材に組み込んだ。

生徒が自ら関心を持ち、基礎基本を身につけ、自分の思いを試行錯誤しながら表現する。今後の生活に生かしていく。そのための手だてを考える事が授業改善や評価の工夫に結びつくと考えた。

事例の題材「人物を描こう」は次のような流れで取り組んだ。

コンテ「人物クロッキー」➡ 基礎的技能を身につける。

宮本三郎美術館アートデリバリーで「舞妓」「手紙」鑑賞 ➡ 感じ取る、考える力を育てる。

コンテ「ポーズをとる友達を描こう」➡ 対象の内面を感じ取り、豊かに表現する。

宮本三郎美術館主催「宮本画伯に挑戦！人物を描こう」(仕上げた生徒作品をすべて応募する。)

地域の美術館を知る。「宮本三郎美術館へ行こう」(応募した作品をギャラリーに展示する。)

宮本三郎の生い立ちを知り、他の作品も鑑賞 ➡ 作品や作家、文化理解のための鑑賞をする。

学習指導と評価を4つの観点から工夫し、下記のような取り組みを考え改善した。

A-1 年間指導計画

A-2 評価規準

2 実践内容

(1) 題材の目標

自分自身の素直な感じ方を大切にして表現のねらいを考え、主体的に取り組もうとする。

モデルの特徴をとらえながら観察の仕方を工夫し、自分らしく豊かに構想することができる。対象の内面や雰囲気など心豊かに感じ取り、効果的な表現方法を工夫しスケッチしていく過程を通して、表現の仕方を身につける。

自他の作品を通して、作者の意図や表現の工夫を感じ取り伝え合い、多様な表現のよさや美しさを味わい深めることができる。

(2) 指導上の工夫点(視点)

美術への関心・意欲・態度

ア クロッキーの紙を綴る。(次の授業の教師の声かけや励ましを考えたり、作品の下にコメントをつける。)

イ 個に応じて”お助けシート”全身像や座像の輪郭をとったシートを用意する。

ウ 宮本三郎の人物画鑑賞では、ねらいにあった本物の絵をアートデリバリーで借りる。

エ 鑑賞の手だてとして、発表など苦手な生徒にワークシートを用意する。

発想や構想の能力

ア 10分間のコンテクロッキーでは、自分達でモデルにあったポーズを考えさせる。

イ 授業の初め、黒板に前時の作品を全員分貼りだしておき、教師側の本時の課題とそれぞれ個人の課題を考え、生徒の気づきを促し、見通しをたてさせる。

創造的な技能

ア 太いコンテと鉛筆型のコンテを用意する。

イ クロッキーはただ対象を捉えて描くだけではないということに気づき始めた頃に、宮本三

- 郎の人物画を鑑賞し、内面へ視点が向くようにする。
- ウ 鉛筆スケッチ 光と影の「球体」を思い出させ、コンテでも光と影を工夫させる。
- 鑑賞の能力
- ア 全員の絵を鑑賞することができるように、黒板を活用する。
- イ 学校で本物を見る機会を持つ。その後、意識が高まったころ実際に宮本三郎美術館へ行く。
- ウ 授業をビデオで撮り生徒の様子・教師の様子を振り返る。

B - 1 評価計画

3 指導の実際

学習内容と活動	教師の支援と評価（支援 評価）
<ul style="list-style-type: none"> 宮本三郎作品 油彩画 「舞妓」の鑑賞 実物の絵を見て直感的に感じ取ったことを話す。 	<p>自分の見方や感じ方を大切にし、関心を持って鑑賞し、素直な感想を述べようとしているか。</p> <p>観点1（観察 発言）</p> <p>鑑賞の視点が深まっている発言やしぐさに気を配り評価する。</p> <p>絵から感じとったことを伝え合い、表現の新たな視点や発想を見つけ、作者の心情や意図、想像力の豊かさを感じ取り、見方を深めようとしているか。</p> <p>観点4（観察 発言 鑑賞ワークシート）</p> <p>生徒のつぶやきや、それぞれに違った感じ取り方をしている発表でも受容し、皆で対話を大切にするように配慮する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 作品に近寄ってじっくり観察する。視点 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>絵から感じ取ったことを伝え合おう。視点</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 見えてきたことをワークシートに書き留める。 <p style="text-align: right;">視点</p>	

指導案の中の視点 ~ は、指導上の工夫点（視点） ~ に対応している。

C - 1 指導案

C - 2 授業の流れと生徒作品

4 成果と課題

(1) 成果

生徒の実態を知った上で、基本的な技能や知識を生徒が気づけるようにした。それにより生徒に自分の思いとそれを表現する構成力や表現技能を工夫する力がついてきた。生徒の感想は「最初は自分が恥ずかしくなるような物だったけど、描いていてバランスがとれてきたら上手くなって、楽しかった。」「美術館が身近に感じられた。」「どんな気持ちで宮本さんはこの絵を描いたんだろうと考えてみた。私も人に何か伝えられる様な絵を描きたいと思った。」「緊張感をもって真剣に人物画を描くことが出来た。」「今度僕が絵を描くとしたらいろんな色を混ぜてみたい。」など、それぞれの生徒が発見や喜びを感じ、次への課題を持つことができた。保護者の方の理解も深まり、美術館を利用した本物の作品の鑑賞は、今後も大いに生かしていきたい。

(2) 課題

客観的な評価のあり方を考え、評価規準の言葉をもっと適切なものにする。何人かの美術科教師で同じ題材に取り組み、それぞれの評価を出し合う。授業参観をして4つの観点で皆で評価してみるなど教師同士の研鑽も必要である。生徒達の確実な学習定着のために、教師同士の取り組みの紹介やワークシートの交換など情報を公開し、これからも学習指導と評価の工夫改善を重ねていきたい。